

ザ・クインテッセンス the Quintessence

10

2012 vol.31 OCTOBER

特別企画：検証の時代はじまる

～Everything Old is New Again～ 成功する根管形成とは？

根管形成のベーシックコンセプトを再考する

奥村秀樹

特集

Evidence Based Dentistry の実践

若手歯科医師の臨床への取り組みから

加藤大明／市野孝昌／戸田慎吾／熊谷 崇

新連載：摂食・嚥下障害評価のコツ①
誤嚥のスクリーニングテスト

戸原 玄／阿部仁子／中山潤利

集中連載：骨膜グラフトの可能性を探る③

骨膜グラフト：応用編① 有茎弁移植

白石和仁／佐竹田 久(イラスト)

New Essence : the Debut

広汎型慢性歯周炎患者に対し、再生療法を積極的に
応用し補綴設計を考察した一症例

石川 亮

World Journals of QUINTESSENCE

CAD-on 法による印象不要の

CEREC マルチレイヤーブリッジ

原著)Klaus Wiedhahn

翻訳)江本 正／江橋完爾 解説)草間幸夫

Section For Up-and-Coming Dentists

ここまでやろう！歯内療法⑤／吉川剛正・田中利典・澤田則宏

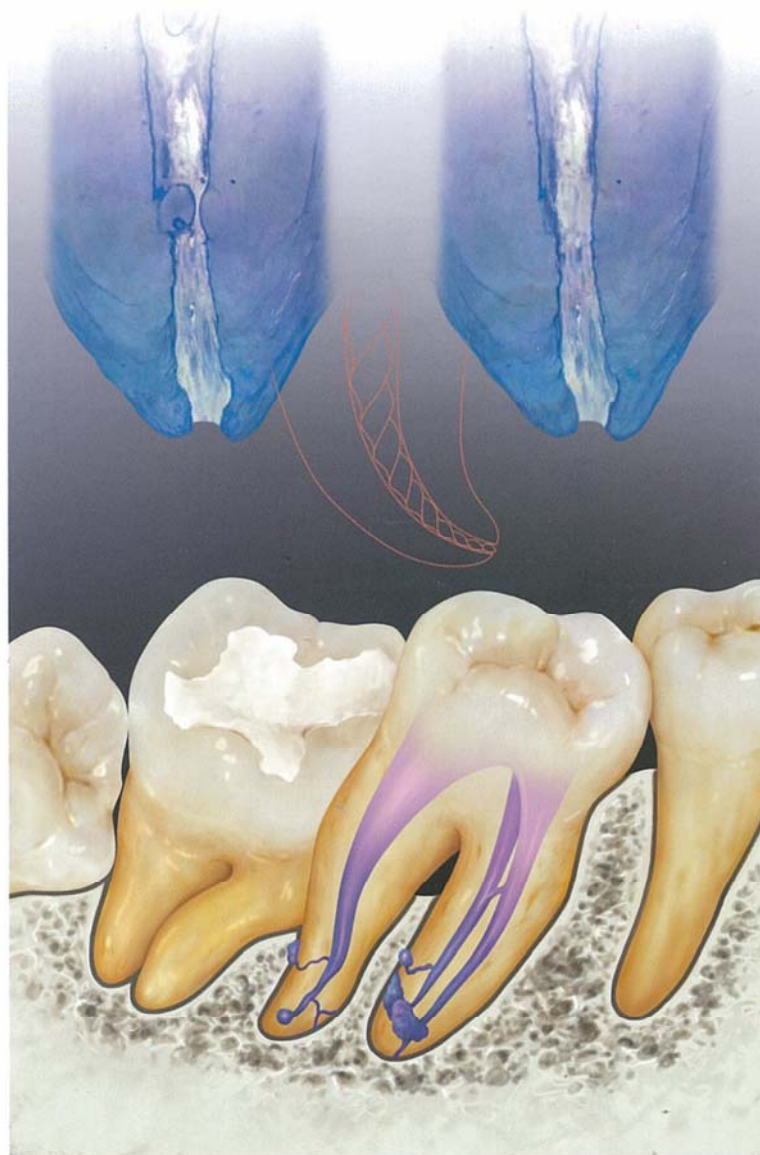
セミナー人気講師に聞く！臨床アドバイス④

補綴歯へのブラケット装着／加治初彦

CR 修復の確実なシェードテイキング／青島徹児

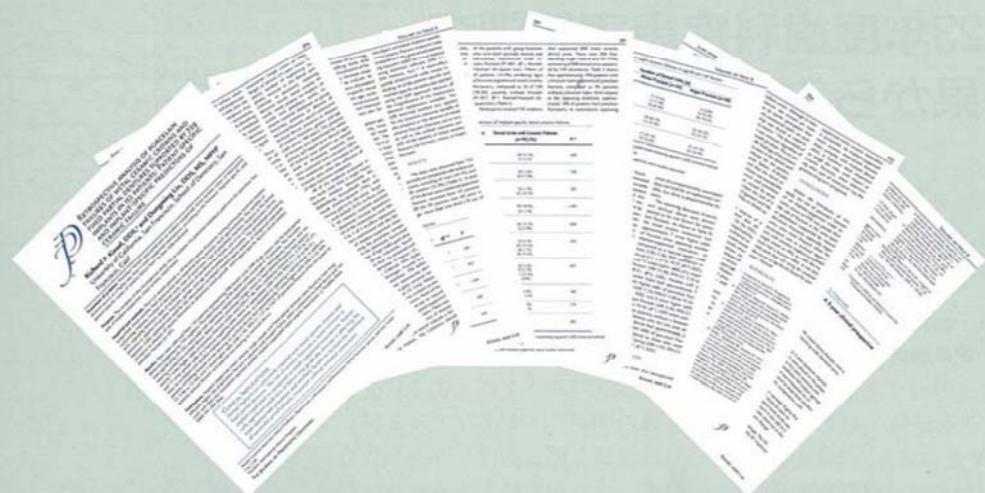
Dr. 美穂の⑧コンサルテーションテクニック④／林 美穂

MY FIRST STAGE／杉本大輔・田中秀樹(コメント)



「今月、なにを読んだ？」

最近読んだ臨床に直結する最新文献を教えてください……



『インプラント上部構造の破損の要因は？』

今月、これ読んだ！

Title Retrospective Analysis of Porcelain Failures of Metal Ceramic Crowns and Fixed Partial Dentures Supported by 729 Implants in 152 Patients: Patient-specific and Implant-specific Predictors of Ceramic Failure.

Author Richard P. Kinsel, Dongming Lin

Journal The Journal of Prosthetic Dentistry 2009 ; 101 (6) : 388 - 394.

今月のサマリー

インプラント上部構造のメタルセラミックスの破折リスクは、ブラキシズムの患者や、ナイトガードを使用していない患者、対合歯がインプラント補綴のメタルセラミック修復の場合に有意に高かった。

なぜ読んだ？

インプラントの合併症のなかで、上部構造補綴物のセラミックスの破損は比較的多く経験する。本論文は、さまざまな要因と上部構造の破損との関係を統計学的に分析しており、破損のリスクファクターを知ろうと有用と考えた。

抄読者の臨床スタイルは？

患者との信頼関係を築きつつ、科学的根拠に基づいた知識や技術をベースとした持続性のある歯科医療を目標に、日々の臨床に取り組んでいる。

どこで読んだ？

JSCO (JIADS STUDY CLUB OSAKA)

だれが抄読者？

岩田光弘 (Mitsuhiro Iwata)

さくらデンタルクリニック

連絡先：〒700-0013 岡山県岡山市北区伊福町3-31-10



本文をもっと知りたい方は
211ページへ



「今月、なにを読んだ？」

最近読んだ臨床に直結する最新文献を教えてください……

これ読んだ！

Kinsel RP, Lin D. Retrospective analysis of porcelain failures of metal ceramic crowns and fixed partial dentures supported by 729 implants in 152 patients: Patient-specific and implant-specific predictors of ceramic failure. J Prosthet Dent 2009 ; 101(6) : 388-394.

この文献がここが肝！

インプラントの上部構造は一般にメタルセラミックスで製作することが多い。天然歯のそれと比較して、築盛用陶材が破折する割合が高いことが過去に報告されている。この研究では、その破折の要因を調べるために、個人開業医でメンテナンスされている、メタルセラミックスで修復されたインプラント補綴を行った患者に対して、後ろ向きに調査を行っている。

152名の患者に対して、729本のインプラントを埋入し、998歯のメタルセラミックスの破折の有無と、患者の年齢や性別、ブラキシズムの有無やオクルーザルスプリントの使用の有無、咬合様式や対合歯の状態などの関係について統計的分析を行っている。

その結果、臼歯離開咬合に比べ、グループファンクションの咬合様式のほうが、破折の割合が高く、ブラキシズムのある患者のほうがない者より破折の割合が高いことが示された(表1)。また、破折の程度とリスクファクターとの関係では、対合歯がインプラントのメタルセラミックスである場合、とくに重度の破折が多く認められた(表2)。対合歯がインプラント補綴の場合は、天然歯と比較して約7倍の破折のリスクがあり、ブラキシズムのある患者は、ない患者と比較して約7倍、ナイトガードを装着していない患者は、装着している患者と比較して約2倍の破折リスクがあることが示された。

以上のことから著者らは、どのような状況が破折のリスクが高くなるかを十分理解したうえで、適切なインプラントの上部構造の選択を行うべきであると述べている。

明日の臨床に“これ”をフィードバック

インプラント補綴は天然歯に対する補綴と比較すると、一般に治療期間は長く、治療コストも高価である。そのため、患者の期待は大きく、早期の補綴物の破損は、術者との信頼関係を損なう原因となり得る。インプラントは天然歯のような歯根膜の感覚受容器がないため、天然歯と比較して、破折のリスクが高いことが予測できる。本論文を参考にすることによって、補綴設計を考慮したうえで、どのような条件が破折リスクを増加させるかを患者にあらかじめ提示することが可能である。そして、ナイトガードの装着やメンテナンス時の咬合のチェックの重要性も理解させることができる。これによって補綴物の持続性が期待できるとともに、患者との信頼関係を継続させる一助ともなり得ると考えた。

表1 患者の要因とメタルセラミックスの破折との関係。

	Patients (n=152)	Patients with Failures (n=35)(%)	Value of K^2 *	df**	P
Gender					
Men	67	18(26.9%)	0.99	1	.320
Women	85	17(20.0%)			
Age					
≤60 yrs old	102	17(16.7%)	7.03	1	.013
>60 yrs old	50	18(36.0%)			
Occlusion					
Anterior Disclusion	125	21(15.9%)	15.29	1	<.001
Group Function	27	14(51.9%)			
Bruxism					
Yes	43	15(34.9%)	4.73	1	.030
No	109	20(17.2%)			
Occlusal device					
Yes	46	13(28.2%)	1.01	1	.314
No	106	22(19.5%)			

*Mantel-Haenszel chi-square test

**Degrees of freedom; nondirectional hypothesis was tested.

表2 メタルセラミックスの破折の程度とリスクファクターとの関係。

	Number of Dental Units(n)		
	No Fracture (n=904)	Minor Fracture (n=36)	Major Fracture (n=58)
Opposing dentition			
Tooth	304(34.2%)	7(19.4%)	3(5.2%)
MC-Tooth	216(24.3%)	4(11.1%)	9(15.5%)
MC-Implant	368(41.5%)	25(69.5%)	46(79.3%)
Bruxism			
Yes	253(28.0%)	24(66.7%)	35(60.3%)
No	651(72.0%)	12(33.3%)	23(39.7%)
Occlusal device			
Yes	372(41.2%)	17(47.2%)	25(43.1%)
No	532(58.8%)	19(52.8%)	33(56.9%)

*Comparing presence of metal ceramic failures to absence of failures using generalized estimating equation(GEE)binomial method.

MC-Tooth : metal ceramic restoration in occlusion contact with natural tooth.

MC-Implant: metal ceramic restoration in occlusion contact with implant-supported, metal ceramic restoration.

抄読者は岩田先生！

